



週間情報



No.0717

発行日 令和7年5月13日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

消防本部の動き

訓練

◆ 水防訓練を実施

豊中市消防局（大阪）

豊中市消防局では、令和7年4月10日（木）から18日（金）までの期間中、水防訓練を実施しました。

この訓練は、出水期に備え、水災害防御に関する知識・技術の向上を目的として実施したものです。

期間中は、段階的に訓練を実施するため、10日（木）から12日（土）までの期間に、土のうの作製要領を確認しました。

また、16日（水）から18日（金）までの期間では、外部から講師をお招きし、水防工法についてご指導いただいた後に、「堤防の表法面に深掘れ（洗掘）が発生した。」との想定で、堤防の決壊や漏水を防ぐ「シート張り工法」を実施し、大変有意義な訓練となりました。



【訓練の様子】

◆ 危険物施設との合同訓練を実施

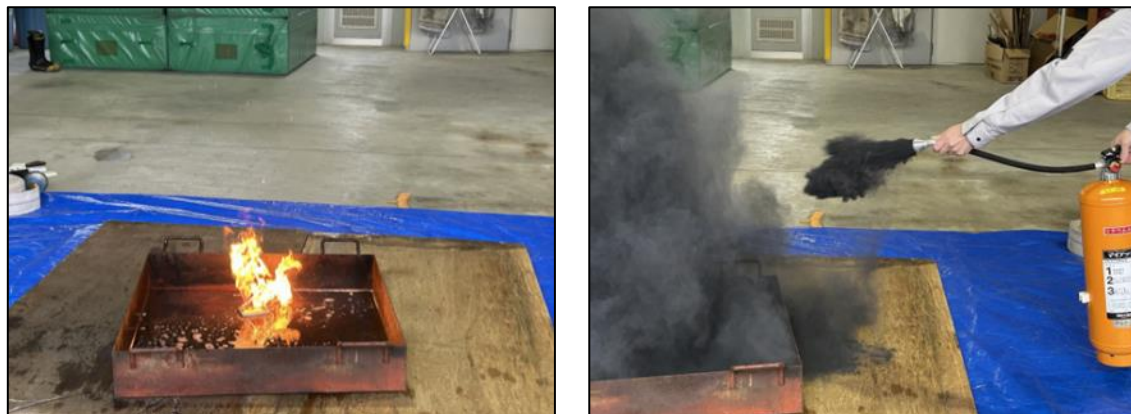
鳥取県東部広域行政管理組合消防局（鳥取）

鳥取県東部広域行政管理組合消防局では、令和7年4月23日（水）、危険物施設と合同訓練を実施しました。

この訓練は、近年、リチウムイオン蓄電池に係る火災が増加していることから、リチウムイオン蓄電池に係る火災性状や消火方法に関する知識・技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、同危険物施設職員が取り扱っている危険物の特性についてご講義いただいたほか、実際にリチウムイオン蓄電池を発火させ、施設内に設置している専用の消火器具を活用した訓練を行いました。

今後も、同危険物施設における火災発生時の対応に関する訓練と意見交換を行い、有事の際の対応力の向上を図るとともに、同危険物施設職員との連携強化に努めてまいります。



【合同訓練の様子】

◆ 消防団合同林野火災対応訓練を実施

青森地域広域事務組合消防本部（青森）

青森地域広域事務組合消防本部では、令和7年4月27日（日）、管内にある住宅が密集する山間部エリアにおいて、消防団合同林野火災対応訓練を実施しました。

この訓練は、消防団員との効率的な情報共有と連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、指揮本部での連携した指揮活動と消防団員による水陸両用バギーを活用した現地調査活動を実施しました。

また、ウォーターカーテン資機材と背負い式消火水のうを活用した訓練を行ったほか、遠距離送水による消火訓練を実施し、消防団員との連携強化を図ることができ、迅速・的確な災害対応力と地域防災力の向上につなげることができました。



【訓練の様子】

研 修

◆ 災害対応研修を実施

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部（静岡）

袋井市森町広域行政組合袋井消防本部では、令和7年4月18日（金）、管理監督者を対象とした「災害対応研修」を実施しました。

当日は、元陸上自衛官で静岡県危機管理指導参与の小平隆弘氏を講師としてお招きし、「災害時の災害対策本部運営の要点及び災害応援部隊の教訓実例」と題して、災害対策本部のあり方、自治体が望む緊急消防援助隊のあり方などについて、同氏自身が東日本大震災、熊本地震、熱海市土砂災害などへ派遣された経験を交えながらご講義いただきました。

研修を通じて、大規模災害時には「判断力」、「胆力」、「柔軟力」が重要であることを学ぶことができました。

全国的に発生頻度が高くなっている大規模災害に備えるため、今後も、組織の災害対応力の向上に努めてまいります。



【災害対応研修の様子】

◆ 「周産期救急講習会」を実施

安来市消防本部（島根）

安来市消防本部では、令和7年4月19日（土）、当消防本部研修室において、職員研修会の一環として、「周産期救急講習会」を実施しました。

この講習会は、周産期救急に対する苦手意識を払拭することを目的として実施したものです。

当日は、隠岐広域連合立隠岐病院副院長の加藤一朗氏を講師としてお招きし、分娩介助と新生児蘇生法についてご講義いただいた後に、実技を実施しました。

また、昨年、当消防本部が経験した分娩介助症例の検討会を行い、同氏から助言をいただきながら活発な意見交換ができ、周産期に関する症例数が少ない中で専門医から直接ご指導いただいたことは、大変貴重な機会となりました。

今後もこのような講習会を継続して行い、救急活動に必要な知識・技術の向上を図るとともに、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【講習会の様子】

そ の 他

◆ 消防ホースを再利用した「火の用心鯉のぼり」を作成

仙台市消防局（宮城）

仙台市消防局では、令和7年4月23日から5月5日までの期間中、庁舎において、こどもの日に併せ、消防ホースを再利用した「火の用心鯉のぼり」を掲示しました。

当消防局は、廃棄予定の消防用ホースでストラップや傘袋などを作成しています。

期間中は、健やかな成長と火災予防の願いを込めた鯉のぼりを空高く掲げていただくため、来庁した子ども達に、自由に装飾ができる無地の鯉のぼりをプレゼントしました。



【火の用心鯉のぼり】

国 等 の 動 き

報道発表

◆ 令和7年春の叙勲（消防関係）

（令和7年4月29日、消防庁）

令和7年春の叙勲（消防関係）受章者は619名で、勲章別内訳は次のとおりです。

瑞宝中綬章	1名
瑞宝小綬章	37名
旭日双光章	4名
瑞宝双光章	99名
瑞宝単光章	478名
計	619名

（受章者名等は、別紙の受章者名簿に記載されています。）

発令年月日 令和7年4月29日（火）（別紙省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/250429_soumu_1.pdf) に掲載されています。

連 絡 先

消防庁総務課

渡部係長・小沼事務官

電話 03-5253-7521（直通）

E-mail: fdma-soumukahyouushou_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際には、「@」に変更してください。

情報提供

◆ 令和8年度「救急救命の高度化の推進に関する調査研究事業」委託団体及び「救急に関する調査研究事業」助成団体の募集について

一般財団法人救急振興財団

令和8年度の募集を以下のとおり行います。

両事業とも病院前救護体制の質向上に効果のある先進的な研究のご提案を期待しております。

1 「救急救命の高度化の推進に関する調査研究事業」委託団体の公募

【事業概要】

プレホスピタルケアの質の向上と救急業務の諸問題の解決に向けて、必要な研究を行うことを目的に、当財団が指定するテーマに沿った研究課題で調査研究を行う委託先を募集します。

【応募資格】

消防機関、医療機関及び都道府県・地域メディカルコントロール協議会等、公益を目的として調査研究を行う団体

【委託研究テーマ】

救急救命の高度化の推進に関する以下のいずれかのテーマに関して研究課題を設定し、事業実施計画を提出すること。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ○救急業務等における情報通信技術 | ○病院前救護に関する教育体制 |
| ○応急手当に関する普及啓発活動 | ○高齢化の進展等時代の変化に対応した救急業務等 |

◎ 当財団ホームページにおいて、応募資格及び研究課題等の詳しい内容を掲載しております。申請する際にご確認ください。

【委託期間】

原則として、令和8年4月1日から令和9年3月1日まで

【委託金額】

1 契約につき200万円以内

(委託契約締結後に委託金の半額を交付し、調査研究完了報告後に残額を交付する。委託金の使途は、当該研究に要する費用とし、使途に関する事項は別に定める。)

【選考】

- ① 当財団の「救急の課題等検討委員会」において審査選考し、委託件数及び団体を決定する。
- ② 審査結果は申請者に通知するとともに、当財団のホームページにおいて公表する。

【その他】

- ① 委託研究にかかる費用は、全て委託費をもって賄わなければならない。
- ② 委託期間中は、委託研究の内容を第三者に公表してはならない。研究が完了し、当財団への報告後については発表及び投稿を可能とする。
- ③ 委託期間内に成果物を報告書としてまとめ、当財団に2部提出する。
- ④ 当財団は、成果物の内容の一部又は全部を、刊行物その他適宜の方法をもって公表できるものとする。
- ⑤ 当財団は、委託研究終了の翌年度に上記③の報告書を印刷し、関係機関等に発送する。研究結果については、日本臨床救急医学会等の雑誌への投稿または、発表による関係者の周知に努めること。なお、投稿文書内または発表において、当財団からの委託により行った研究である旨を明確にすること。
- ⑥ 本事業は調査研究を委託するものであり、費用は委託金として支払う。従って、その委託金を当財団からの寄付として支払うことはできない。

2 「救急に関する調査研究事業」助成団体の公募

【事業概要】

救急業務に関する先進的な調査研究を行う団体に対し、当該研究に必要な経費の助成を行います。

【応募資格】

消防機関、医療機関及び都道府県・地域メディカルコントロール協議会等、公益を目的として調査研究を行う団体

【助成対象課題】

救急業務に関する先進的な調査研究全般

(過去に発表された研究課題は、当財団のホームページで閲覧可能)

【研究期間】

令和8年4月1日から令和9年3月1日まで

【助成金額】

1 団体につき100万円以内

(助成団体決定後に助成金の半額を交付し、調査研究完了報告後に残額を交付する。助成金の使途は、当該研究及び当財団に提出する報告書作成に要する費用とし、使途に関する事項は別に定める。)

◎ 応募資格など詳しい内容は、当財団ホームページをご覧ください。

【選考】

- ① 当財団の「救急に関する調査研究事業助成審査委員会」において審査選考し、助成件数及び団体を決定する。
- ② 審査結果は申請者に通知するとともに、当財団のホームページにおいて公表する。

【その他】

- ① 研究期間内に成果物を報告書としてまとめ、当財団に5部提出する。
- ② 当財団は、成果物の内容の一部又は全部を、刊行物その他適宜の方法をもって公表できるものとする。
- ③ 研究機関中は、研究の内容を第三者に公表してはならない。研究が完了し、当財団への報告後については発表及び投稿を可能とする。その際は、当財団からの助成により行った研究である旨を公表すること。
- ④ 本事業は調査研究を助成するものであり、費用は助成金として支払う。従って、その助成金を当財団からの寄付として支払うことはできない。

3 申請方法

申請者は、当財団のホームページから申請書類をダウンロードし、下記宛先まで電子メール又は郵送すること。

申請書類送付先	〒192-0364 東京都八王子市南大沢四丁目6番地 一般財団法人救急振興財団 企画調査課
応募締切日	令和7年10月27日(月) 必着
問合せ先	企画調査課 松村・高橋・石井 TEL: 042-675-9931 E-mail: kikaku-info@fasd.or.jp
救急振興財団 ホームページ	https://www.fasd.jp/



【「救急救命の高度化の推進に関する調査研究事業」委託団体の公募 二次元コード】



【「救急に関する調査研究事業」助成団体の公募 二次元コード】

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 児嶋

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。